写真撮影例（取付管種陶管、塩ビ管）

公共ます改造工事については、施工前、施行中、施工後の写真を以下の例のとおり撮影してください。

施工中の写真は取付管種（陶管、塩ビ管）ごとにあります。陶管の場合は２、塩ビ管の場合は３をご覧ください。

写真に工事件名、工事場所、撮影対象がわかるように黒板に明記し撮影してください。

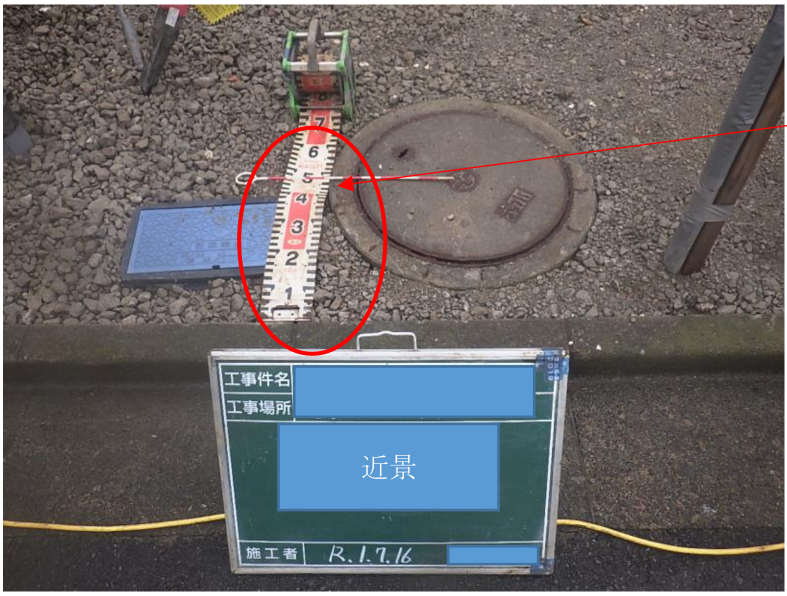
１．　施工前

撮影のポイント

○全景

・公共ますの位置と宅地の高低差がわかるように撮影してください。

○近景



・リボンテープ、ピンポール等を置いて道路境界から公共ますまでの距離がわかるように撮影してください。

撮影方法を工夫して公共ますの位置と宅地の高低差、道路境界からの距離が確認できれば、全景、近景写真を１枚にまとめることも可能です。

○使用部材

撮影のポイント

・ます、蓋、継手、直管、曲管、接合剤、滑材の写真を撮影してください。

・継手はゴム輪がついていることがわかるように撮影してください。

・黒板に使用する部材名を明記するか、写真帳の余白等に記入してください。

使用部材記載例
φ200mm マルチます、φ150mm ゴム輪受口差込継手自在曲管、T-8 防護蓋、内蓋、エポキシ樹脂接着剤（ドレンタイト）、滑材

２．施工中（取付管が陶管の場合）

○取付管と継手

撮影のポイント

・砂基礎を転圧した後に取付管と接続する継手を並べて撮影してください。

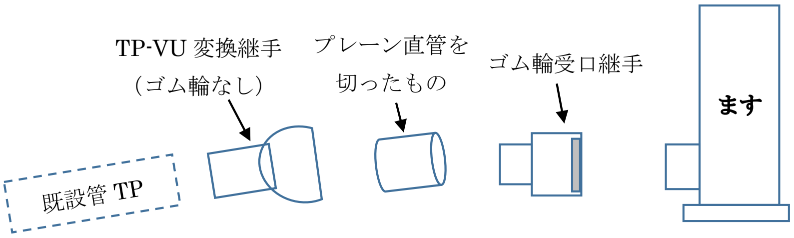
・取付管の内側にゴミや汚れがあると、しっかりと接続できません。接続前に清掃した状態で撮影してください。

・写真帳の余白に既設取付管の口径を記載してください。

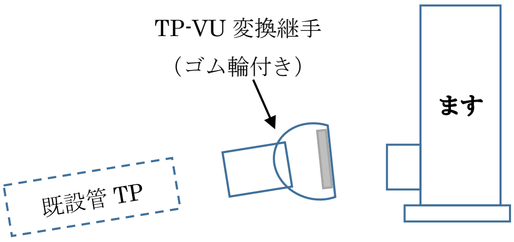
記載例
既設取付管 TPΦ150mm

参考配管例

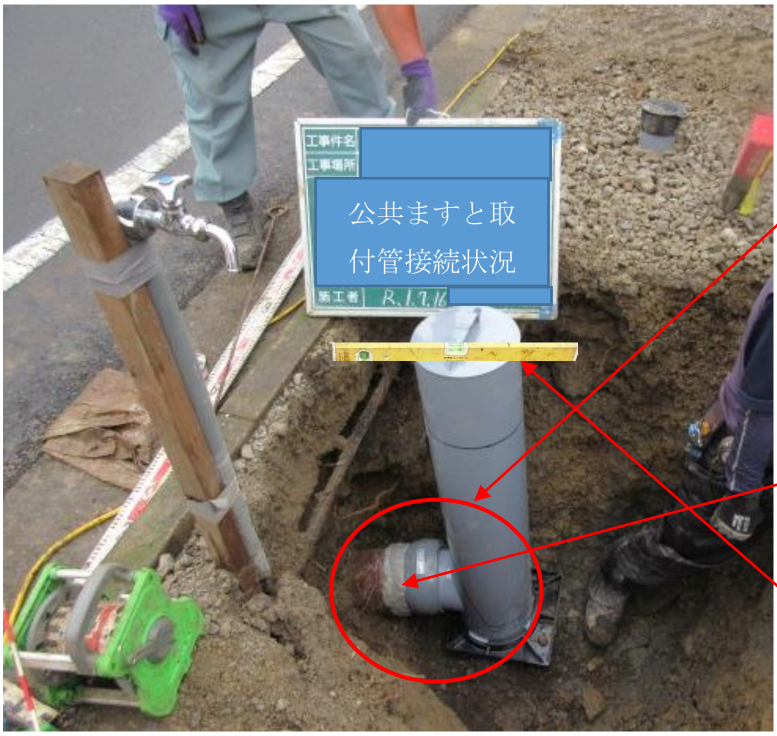
① TP−VU 変換継手（ゴム輪無し）を使用する場合
（※ ゴム輪付きの部材を、公共ますの手前で必ず一箇所使用して下さい。）



② TP−VU 変換継手（ゴム輪付き）を使用する場合
（※ 変換継手にゴム輪がついているので、角度に問題がなければこの製品だけで接続は可能です。）
（※ ゴム輪付き変換継手のほうが、継手部材が少なく、また間違いも少なくなります。）



○公共ますと取付管接続状況



撮影のポイント

・取付管、継手、ますの接続した写真を撮影してください。

・継手ののみ込みが確認できるように撮影してください。

・公共ますの上端部に水平器を置いて水平になっているか確認してください。

３. 施工中 **（取付管が塩ビ管の場合）**

○取付管と継手

撮影のポイント

・砂基礎を転圧した後に取付管と接続する継手を並べて撮影してください。

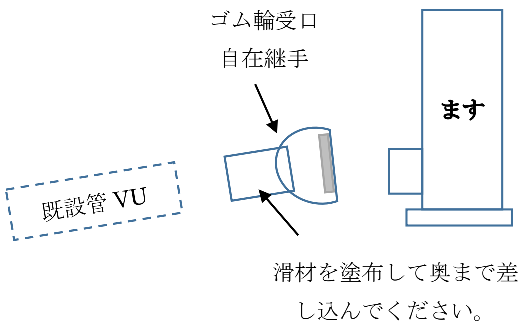
・取付管の内側にゴミや汚れがあると、しっかりと接続できません。接続前に清掃した状態で撮影してください。

・写真帳の余白に既設取付管の口径を記載してください。

記載例
既設取付管 VUΦ150mm

参考配管例

ゴム輪受口自在継手を使用する場合



○公共ますと取付管接続状況

撮影のポイント

・取付管、継手、ますの接続した写真を撮影してください。

・継手ののみ込みが確認できるように撮影してください。

・公共ますの上端部に水平器を置いて水平になっているか確認してください。

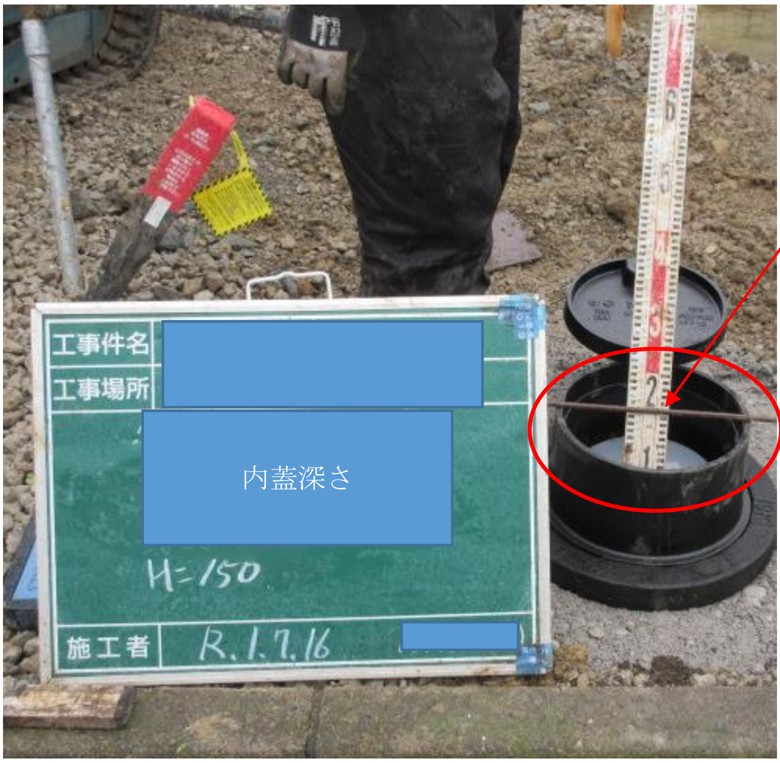
４．施工後

○公共ます深さ

撮影のポイント

・ますの深さの確認のため、管底から防護蓋天端までをスケール、ピンポール等を用いて撮影してください。

○内蓋深さ



・内蓋から防護蓋天端までの深さを15cm 程度取れていることが確認できるように撮影してください。

○公共ます内部

撮影のポイント

・ますの種類がわかるように撮影してください。

部材写真や公共ますと取付管の接続写真でますの種類（マルチ、三方向、ストレート）が確認できる場合は、公共ます内部写真は省略することも可能です。

○全景

撮影のポイント

・公共ますの位置と宅地の高低差がわかるように撮影してください。

○近景

・スタッフ、ピンポール等を置いて道路境界から公共ますまでの距離がわかるように撮影してください。

撮影方法を工夫して公共ますの位置と宅地の高低差、道路境界からの距離が確認できれば、全景、近景写真を１枚にまとめることも可能です。